

行革のすすめ

Vol. 14
平成24年10月1日

(いんたらネットふくい「職員のひろば」－行政改革室－行財政改革ニュース「行革のすすめ」)



若手・中堅職員との意見交換会

人事企画課では今年度、若手から中堅職員の皆さんを対象とした意見交換会を、7月～8月にかけて、各地区（本庁、福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭）で計7回開きました。

この意見交換会は、参加された職員の皆さんに入庁以来、県の業務に携わってきた経験を振り返っていただき、仕事がしやすく活発な職場、効率的で効果的な仕事の進め方、モチベーションの高め方などについて、自由に発言していただく目的で開催しました。

各会の参加者には、10名前後のグループに分かれてもらい、事前にお知らせしたテーマをもとに話し合っていました。

さまざまな職場から参加していただき、普段あまり話す機会のない職員同士が、仕事を離れて共通のテーマで話し合うことで、他の人の仕事に向かう姿勢を知り、お互いの課題の共有や、職種の異なる職員同士の理解が深まりました。



意見交換会の開催状況

地区	開催日	会場	地域別参加 人数計と内訳		年代		
					20代	30代	40代以上
本庁	7月6日(金)	正庁	20人	男13人 女7人	1人 1人	12人 6人	0人 0人
奥越	7月10日(火)	奥越土木事務所	13人	男8人 女5人	1人 0人	7人 4人	0人 1人
丹南	7月12日(木)	丹南土木事務所	9人	男7人 女2人	0人 0人	7人 2人	0人 0人
坂井	7月24日(火)	坂井合同庁舎	17人	男13人 女4人	2人 1人	11人 3人	0人 0人
福井	7月25日(水)	福井土木事務所	18人	男12人 女6人	1人 0人	11人 6人	0人 0人
二州	8月9日(木)	敦賀土木事務所	18人	男15人 女3人	1人 2人	14人 1人	0人 0人
若狭	8月10日(金)	小浜土木事務所	9人	男7人 女2人	3人 0人	4人 2人	0人 0人
計			104人	男75人 女29人	9人	66人	0人
					4人	24人	1人
					13人	90人	1人

意見交換会のテーマと意見等

【これまで県の仕事に携わって、良かったこと、大変だったことなど】

参加された皆さんの意見を聞くと、うれしかったことより、つらかったことの意見の方が多かったようです。ただ、つらい経験を乗り越えた時に自分の成長を実感したとの意見も数多くあり、つらい状況にあっても我慢強く仕事に取り組んでいる様子がうかがえ、頼もしさを感じました。

前任者からの引継ぎが不十分だったり、職場内でのフォローが無かったりということが仕事をつらくする一因になっている例も多く、職員間のコミュニケーションや仕事のマナーも重要との印象を持ちました。



前の所属は、本当につらかったが、仕事の中で、県庁内の色々な情報が入ってくるので、とても勉強になった。どの所属に行っても、行ったところで一生懸命にやれば、自分のためになると思う。



異動後すぐに、業務の知識もないまま、いきなり施設の理事長などと話をすることが、最初はとてもつらかった。その後、法律などの知識を学ぶことで、しっかりと話せるようになり、それを自分で実感できるようになったことがよかった。



業務の中では、つらい思いは色々あったが周りの同僚が良い人であったので助かったと思う。所属の雰囲気もよかった。つらい時に、周りがフォローしてくれる職場環境だったのがよかったと思う。



災害が相次いで発生したとき、被害調査を、役場に泊り込んで、休み返上で町職員と一緒に仕事をした。設計書づくりや災害査定に取り組んだが、終わった際には、町職員から感謝された。それまで自分の工事だけを担当してきただけだったので、とてもよい経験になったと思う。



現場の問題をすばやく解決することで、工事もすばやく進む。結果的に住民の人にとってもよろこばれる。

【これからの仕事、能力アップについて】



専門職だが、それだけに偏らないよう、いろいろな業務を経験させてほしい。



少しずつでも、資格を取得するようにしている。何年前には、職場で、資格取得に向けた勉強会を行っていた。



選択制の研修は、自ら受講しようとしている人は、既に自分で考えて行動している人。本当に受講すべき人がもれなく受講しないとイケない仕組みにすべき。



担当者向けの研修・説明会は、その業務分野から離れているとそれを受けられない。希望する研修には、担当でなくてもスキルアップの観点から、受講できるような改善をしてほしい。



職員は資格取得に積極的。私も保育士の資格を取得に向け勉強中だし、他の人も精神保健福祉士の資格を取ろうとしている。それが、お互いにより刺激になっている。



最近の相談の事例は、韓国やフィリピン、中国などの外国人のケースが増えている。そのため、職員みんなで色々な語学を分担して勉強している。TOEICの受験もしてみたい。



30代の職員を中心に技師会を開催しており、皆で農家が育てている作物の事例を見に行ったりしている（飲み会なども開催）。

皆さん、学習意欲が強いように感じました。また、職場や同年代で協力したり、刺激し合っているという意見も多くあり、能力アップには雰囲気づくりも重要なポイントになっているとの印象を持ちました。

また、技術職の方の中には、違う分野の仕事も積極的に経験したいという意見も多かったようです。

職員研修については、受講したい（すべき）研修を時期や所属を限定せず柔軟に受けられるよう改善を求める意見もありました。



【福井の魅力向上について】



福井に悪い印象は無いが、住みやすいと聞く一方、とんがったもの、強烈に印象に残るものが無い。(例えば、香川といえは、「うどん」)



サンドームでコンサートやライブがあると、ファンの方が他県から大勢来る。ただし、コンサートが終われば、泊まらずにそのまま帰ってしまう。この人たちに福井に泊まってもらえるような工夫をしなければならないと思う。



最近、漁業体験が流行っているので、民宿の近くの無人島の見学とかを売りにしていくと良いと思う。ノウハウがわかれば、観光として売りになると思う。



アウトドアがブームになっている。若狭には自転車道があるので、整備してPRしてはどうか。また、県立クライミングセンターがあるが、公立でこれだけの規模のものは他県に無い。県内のアウトドアショップと一緒にホームページ等でPRしていくと良い。

仕事や遊びで県外に行ったとき、県外の人との話や、物に触れて改めて福井県の魅力を再発見できることもあるかもしれません。アンテナを張ってどういうところが魅力になるかを知ることが大切です。



【その他、テーマ以外に出た意見など】

その他にも、仕事と家庭を両立するための意見や、積極的な仕事の取り組み方に関する意見も多くあり、県の職員として仕事を良くしていこうとする意見が多くありました。



少人数所属なので、これまで限られた職員としか話したこと無かったが、今日はいろいろな職種の話が聞けて、大変良かった。



インターネットなどの普及で一般の人でも専門的な情報を知っていることがある。こちららも今まで以上に勉強して知識を深めないといけない。



仕事と家庭の両立のためには、周りのサポートが重要である。

〇〇時までには終わらせて帰るという感覚がない職員も、中にはいる。段取りを考えて仕事をすべき。



地元の人との打ち合わせなど、どうしてもライトダウンデーに超過勤務をしないといけない場合もある。所属毎に日を決めさせてほしい。



子育て世代としての意見を言うのに良い機会だと言われて出席した。今後はそういう意見も聞いてほしい。



県職員は基本的にオールラウンダーだが、近年、発生する問題が深刻化している。オールラウンダーでは解決できない問題も発生しており、スペシャリストも重要になってくる。これからはオールラウンダーとスペシャリストがお互いの長所を活かし合える職場になると良い。



はじめは、みんな緊張していましたが、テーマに沿って話すうちに、いろいろな意見がでました。この意見を今後のみなさんの人材育成やモチベーションの向上などに活かせるよう参考にします。



平成24年度 BPR運動の取組状況

平成24年度 BPR運動とは？

BPR運動とは、慣例や前例にとらわれず、ゼロベースで業務過程の改善策を検討、実施することを通じ、職員一人ひとりの意識を高め、県民の立場に立って「行政サービスの向上」や「能率向上」、「コスト削減」を図ることを目的として行っている運動です。

今年度は、グループ、所属内での「県庁に対する県民満足度を向上させること」を大きな目的とした取組を推進しています。

【 取組件数 】

- ・県民満足アップBPR運動
(所属によるBPR運動) 239件
- ・提案型BPR運動 115件

県民満足アップBPR運動 取組事例

いただいた取組の中の一部をご紹介します。

行政手続きにかかる 処理期間の明確化

(情報公開・法制課)

各手続きを所管する所属に対し、標準処理期間・審査基準の設定、見直し等の検討を要請し、標準処理期間の短縮化を図る。

主な手続きに関する情報をHPに掲載し、申請に要する時期を予測できるようにして、申請者の利便性を高める。

文化施設の活性化

(文化振興課)

文化施設の利用者増につなげるために・・・

- ・課の職員が休日にボランティアとして展示等の解説を実施
- ・施設の入館者を日ごとに把握できるシステムを作成
- ・施設の活動を紹介するHPを開設
- ・出張毎に文化施設等の紹介を行う

その他の取り組みは「職員のひろば」→「BPR運動」に掲載します。

災害現場の見える化

(危機対策・防災課)

大雨等の災害情報は各市町等からの聞き取りにとどまり、具体的な被害状況の把握が困難なため、今後の災害時において迅速、正確な災害情報を収集し、連絡会議等に活用する。

→災害現場へビデオカメラを持参し、映像を県庁に同時配信して災害状況の把握を行い早期の災害制圧にむけ、情報の収集を行う。

備えあれば憂いなし 「いざ通行止め」

(小浜土木事務所)



過去の通行止め発生状況の分析とそれぞれの対応マニュアルを再検討し通行止め箇所に応じた対応をパッケージ化する。(区間、使用機材、所要要員、情報共有体制)

→通行止めの発生が予想される場合に備え、事前に体制が整えられる。

住民協働で 緑地づくり

(敦賀港湾事務所)

NPOやシニアライオンズクラブ、ボーイスカウトなどと協同して港湾隣接山間地で種子の採取を行い苗木の育成と港湾緑地への植樹までを実施。

→緑地整備に要する経費削減と市民へのPR
自然保護活動への啓蒙



図書館利用カード 郵送サービス開始

(図書館)



図書館の利用促進のため、HPに申請書様式、申し込み手順を掲載し、郵送による利用カードの交付申し込みを受け付ける。

→遠隔地居住者、障害のある方など様々な理由で来館が困難な方にも利用カードも申し込みが容易となり利用が促進される。

市町に喜ばれる 市町振興課へ

(市町振興課)

- ・課の職員がそれぞれ1つの市町担当として、事業に積極的に参加。市町に情報提供や助言を行い、市町とともにふるさと創造プロジェクトを創り上げる。
- ・国や県の業務に必要な情報を求めるばかりでなく、市町への有益な情報提供や、地域の課題解決のために積極的にかかわり、役立つ情報をメールマガジン等で発信。

HPを利用した 証明書交付申請

(道守高校)

学校のHPに各証明書(卒業証明書、在学証明書、成績証明書など)の交付申請の様式と発行要領を掲載してダウンロードできるようにする。

→申請者への利便性の向上と電話での問い合わせの軽減。






提案型BPR運動について

提案型BPR運動では、今年度は115件の提案をいただきました。
 その中で、既に通知や「仕事の進め方 Step Up!」等にて周知をお願いしているものもありましたので、再度ご確認いただき、所属内で確実に実施していただけるようお願いします。



「仕事の進め方 Step Up!
 ~現状チェックと改善ポイント~」を
 チェックリストとして活用し、所属で
 実施されていないことがあれば、すぐ
 に取り組みましょう!



BPR 提案内容	「仕事の進め方」等の該当項目と対応方法など
「全庁一斉清掃日の設定」 「週末クリーンアップタイム」	「仕事の進め方」に毎週金曜日からライトダウナーの勤務時間終了後に清掃を行うことを掲載しています。所属内で清掃日を設定し、定期的に清掃を行いましょう。 
「そんなに書類入りますか」 回覧等の書類は電子ファイル化して共用フォルダに保存またはメールで各個人に送付する。	「仕事の進め方」に資料の縮減として様々な縮減の仕方を掲載しています。無駄な資料を作らないよう心がけましょう。
「文書発送の改善」 紙とメールで同文書が送られてくる。重複して受けてしまうので、通知文や簡単な照会文はメールのみでよい。	「県庁メールのルール、マナーについて」にて通知していますが、公印を押印した文書など一部を除き、メールで送信した内容と同じ印刷物は送付しないようにしましょう。 
「財務システムによる コピー用紙削減運動」 財務システムでの印刷の際、両面印刷を選択可能にする。 	昨年同内容の提案があり、「職員のひろば」に回答を掲載したようにソフトウェア自体がメーカー製の著作物であり、両面印刷等の操作ができるようプログラムの改修はできませんが、参考までに両面印刷を行う方法があります。 【即時印刷を両面印刷する方法】 ①行情端末のプリンタ設定において印刷を「一時停止」 ②財務会計システムで帳票作成の処理を実施。（入力画面で実行ボタン押下） ③プリンタ設定で「該当帳票をキャンセル」→「一時停止の解除」をする。 ④「帳票管理」画面にて該当帳票をプレビュー表示させ「印刷」画面を呼び出して両面印刷を実施
メール送付先の表示について 印刷する際、配布先を表示するかしないか選択できる機能をつける。	昨年同内容の提案があり、「職員のひろば」に回答を掲載したように、送信者がTOで設定した配付先を印刷しない方法があります。 【配布先が印刷不要の場合】 メール画面上部にある「ツール」→「フォーマットの設定」→「印刷形式」を選択して、「配布先：\$TO\$」の行を削除して設定登録をする。元に戻す際は、「印刷形式」の編集画面で、「標準に戻す」を選択して設定登録する。 また、メールの送信者が配付先をTOで設定せず、BCCで設定すれば、配布先の一覧は出ない。

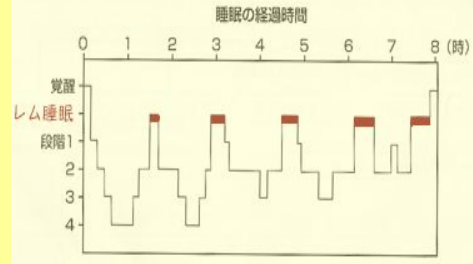
秋の健康管理 ぐっすり眠って、健康づくり!

朝夕は多少ともしのぎやすくなりましたが、この夏よく眠れなかった人も多いのではないのでしょうか。

睡眠は、①脳や心の疲労回復、②記憶や感情の整理、③免疫機能の向上など大切な働きがあります。質の高い睡眠を心がけ気持ちの良い毎日を過ごしましょう。



睡眠には、身体は休んでいるが脳は活動している「レム睡眠」と、身体も脳も休んでいる深い眠りの「ノンレム睡眠」の2つのパターンがあります。この2つの繰り返しが約1時間半でリズムをつくっています。睡眠時間を長く取れない時は少しでも睡眠の質を高める工夫をしましょう。



睡眠の質を高めるポイント

秋の夜長、
夜更かし厳禁。



- 睡眠時間は人それぞれ。日中、眠気で困らなければ十分。
- 眠たくなってから床につく。就寝時間にこだわらない。
- 毎日、同じ時刻に起床する。休日も概ね同じ時刻に起床する。
休日の寝だめは、生活リズムを乱すことになる。
- 寝る前にリラックスする。
ぬるめのお風呂に入る、軽いストレッチ体操など。
- 規則的な運動習慣は熟睡を促す。
ほどよい身体的疲労は心地よい睡眠を生み出す。
- 睡眠薬代替りの寝酒は不眠のもと。
寝酒は深い睡眠を減らし、夜中に目が覚める原因となる。
- 目が覚めたら、カーテンを開けて朝日を浴びる。
太陽光には体内時計を調整する働きがある。
- 朝食に温かいものをゆっくり食べる。
朝食は脳にブドウ糖を供給し血圧を上げ、働く体制を整える。
- 昼寝は、遅くとも15時までに30分以内にする。
午後の眠気に、短い時間の昼寝は効果的。



激しいいびきは要注意!

いびきは、眠ることによって狭くなった気道を空気が通過するときの音です。深酒をしたときや風邪で鼻の通りが悪くなっている時に起こる問題のないものと、心身に悪影響を与えるものがあります。

その一つが、「睡眠時無呼吸症候群」です。

眠っている間に無呼吸を繰り返し、血液中の酸素が低下したり、睡眠を妨げ日中の眠気が強くなったり、注意力が散漫になります。

※ 日中の眠気、激しいいびき、無呼吸など気になる場合は、医療機関で診てもらいましょう。



いびきが
うるさい...

英語特別研修

国際交流員 Jeffreyさんと Let's speak in English !

「英語を勉強しているけど、使う機会がない」「なかなか上達しない」など英語を勉強していると、悩みも多いと思います。

そこで、今回国際交流員のジェフリ・グアネリさんをお迎えし、英語特別研修を実施しました。

日時：①平成24年9月 4日（火） 17:30～19:30

②平成24年9月11日（火） 17:30～19:30

場所：県庁11階 1102会議室

講師：ジェフリ グアネリさん（国際交流員）

参加人数：①11人 ②12人



研修内容

①自己紹介

- ・ジェフさんの自己紹介後、参加者全員が①名前②所属③動物になるとしたら何になりたいかとその理由を英語で紹介しました。

②アイスブレイク

- ・3、4人のグループに分かれ、グループの一人が、イラストが描かれたカードをひいて、自分は見えないよう頭にかざし、グループの他の人に質問して、その絵が何かを当てるゲームをしました。

英語で質問することで、徐々に英語を使うことに慣れていきました。

③グループトーク

- ・少人数のグループで、自分の仕事や趣味、福井のおいしい食べ物やお勧めのレストランなどについてフリートーク。緊張がほぐれたのか、笑い声もあちこちで飛び交いました。

④英語学習法について

- ・各自の英語勉強法を紹介し合いました。「英英辞書を使用している」「ラジオ英会話を聴いている」「英語の本を読んでいる」などの勉強法を聞くことで刺激を受けている様子でした。
- ・また、ジェフさんからは、ジェフさんの「日本語勉強法」が紹介されました。ジェフさんは、日本のマンガが大好きで「NARUTO」や「GTO」などを読んでいるそうです。

⑤ジェフさんへの質問タイム

- ・「福井で好きな食べ物は何か」「お気に入りの場所は何ですか」など、たくさんの質問が出ました。ジェフさんは、ビールや福井のソースカツ丼が大好きだそうです。また、三方五湖や越前海岸など福井の自然が気に入っていると話してくださいました。

研修中は日本語禁止！
英語で会話するのは難しいけど楽しいよ！



★ 受講者の声 ★

- ・英語のコミュニケーションを楽しむことができた。
- ・語彙やリスニングの能力不足を感じたが、他の参加者の刺激を受けた。
- ・英語学習に対するモチベーションが下がっていたが、出席してモチベーションが上がった。

